

県内経済動向調査結果(平成21年2月分)

平成21年4月3日
産業経済政策課

概 況

県内経済は、国内外の需要減退の深刻化により、製造業、サービス業での落ち込み幅が拡大し、一層悪化している。

主な業種	状 況
製 造 業	<p>ほとんどの業種で生産・受注が大幅に落ち込んでおり、一層悪化している</p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比47.1%減、同46.6%減となった。3か月先の業況見通しDIは 43.4から 14.8となった。</p>
建 設 業	<p>業界全体で厳しい状況が続いている</p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比132.6%増、同44.7%減となった。3か月先の業況見通しDIは 43.8から 33.3となった。</p>
小 売 業	<p>弱い動きが広がっている</p> <p>売上高は前年同月比で3.1%増、3か月先の業況見通しDIは 61.5から 50.0となった。</p>
サービス業	<p>運輸業や旅館・ホテルを中心に悪化している</p> <p>売上高は前年同月比20.8%減、3か月先の業況見通しDIは 12.5から 4.2となった。</p>

製造業の動向

1 食料品

弱い動きが続く

生産額は前年同月比1.6%減。3か月先の業況見通しDIは 57.1から 35.7となった。

酒類では、各地域で売上が落ち込んでいるが、特に県外で売上が伸び悩んでおり、前年比3.5%減となっている。花見などの行楽シーズンに期待を寄せている企業が多い。加工食品や調味料関連では、スープなどの鍋物商品でやや落ち込みがみられるほか、菓子類でも前年比微減となっている。酒類以外の食料品は、前年をやや下回っており弱い動きは続いている。

この間、ペットボトルなどの石油製品や、段ボールなどの資材で高止まりが続いているほか、原料でも高止まりしており、企業の収益を悪化させている。

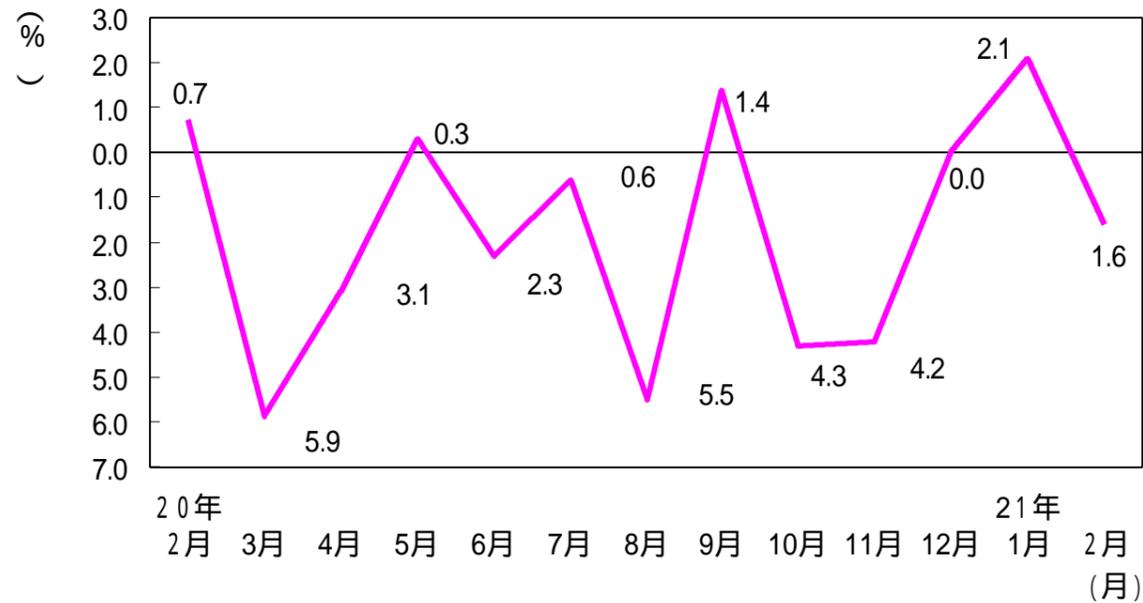
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

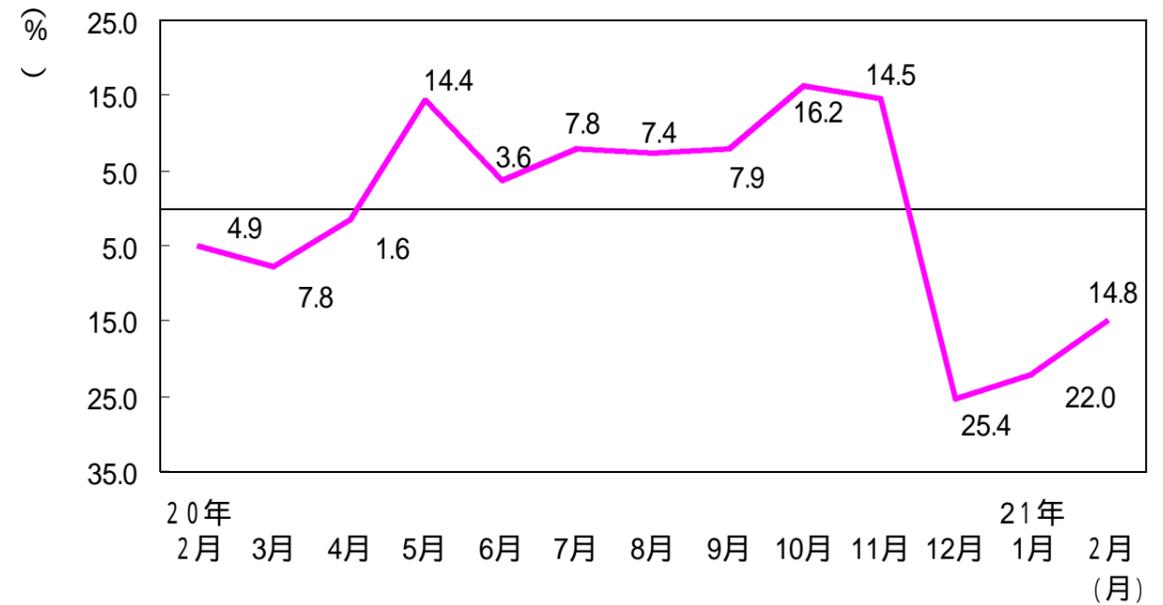
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比14.8%減、同30.1%減。3か月先の業況見通しDIは 66.7と変わらない。

百貨店を中心に売上が伸び悩んでいることから、婦人服、紳士服ともに春物の生産が減少している。春夏に向けた受注でも、一部の企業を除いて大幅に減少しており、総じて低調となっている。引き続き小ロット・短納期の発注が多いほか、衣料業界の今後の更なる落ち込みを懸念する企業が多く見受けられる。

食料品生産額前年同月比



繊維・衣服生産額前年同月比



3 木材・木製品

18ヵ月連続マイナス、厳しい状況が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.3%減、同21.1%減。3か月先の業況見通しDIは 25.0から 18.2となった。

合板製造過程で生産される木材チップでは、好調となっている。しかし国内景気の悪化に伴い全国的に住宅市況が低迷しているほか、季節要因もあり、総じて合板、集成材、一般製材で低調な生産活動が続いている。資材価格が高値で安定しているにもかかわらず、製品に対する値下げ要請が強まっており、企業の経営状況を厳しくさせている。

春は住宅建設による需要期であることから、一般製材の一部では、受注に動きが出始めている。景気悪化に伴う先行き不安から、一時帰休や休業を行う企業も見受けられる。

4 鉄鋼・金属製品

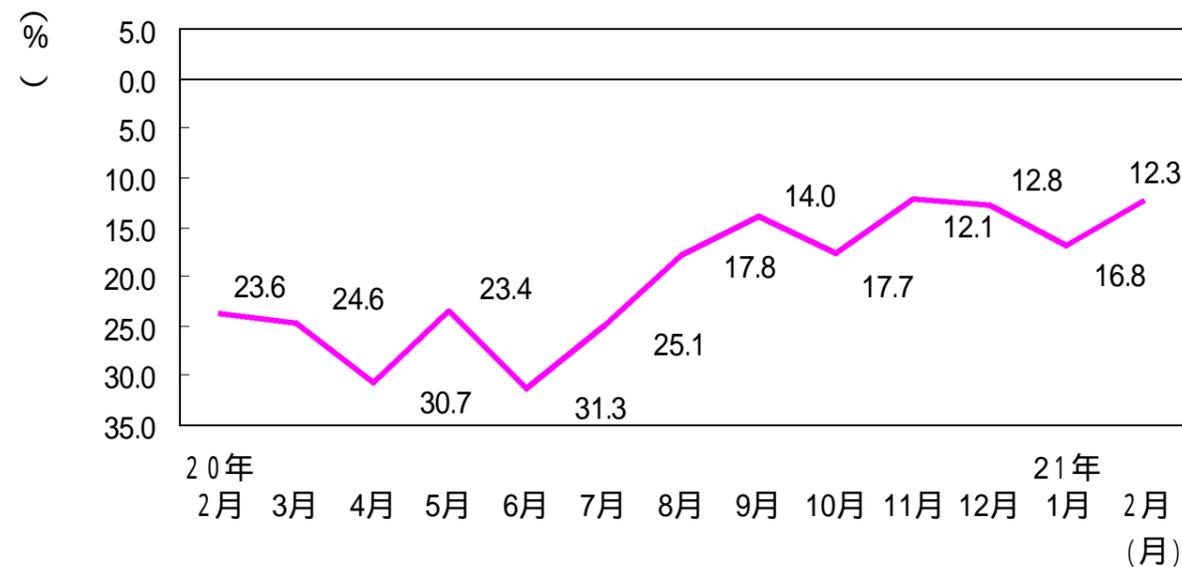
大幅に悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比57.1%減、同50.9%減。3か月先の業況見通しDIは 36.4から20.0となった。

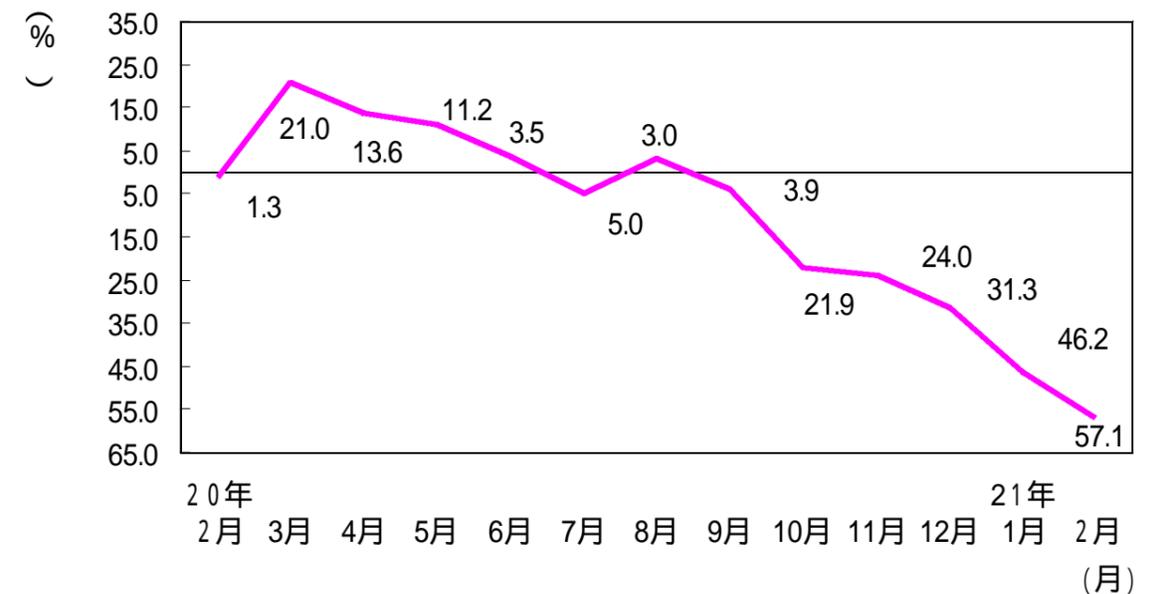
建機関連で、先月に引き続き堅調を維持しているほか、医療機器関連でも堅調な生産となっている。公共工事関連でも、景気対策の前倒し工事受注により、橋梁やエネルギー関連を中心に好調となっている。一方で、自動車用プレス関連では、ハイブリットカー部品で動きが出始めているものの、多くの企業で生産を停止しており厳しい状況となっている。電気機械関係では、DVDやブルーレイ部品を中心にやや回復の兆しを見せている。建具関係でも、住宅市況の一層悪化から、前年比3割以上の減産となっており、大変厳しい状況となっている。総じて見ると、出荷額の大きい自動車部品関連や電気機械関連の落ち込みが牽引し、全体としては大幅に悪化している。

生産調整について一時帰休や休業などで対応している企業があるほか、3月以降非正規社員雇い止めなどの雇用調整を検討している企業も多く見受けられる。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比



5 一般機械

弱い動きだが、品目によって分かれる

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比7.5%減、同2.4%減。3か月先の業況見通しDIは 85.7から 57.1となった。

プラント設備関連では、先月に引き続き県外公共工事やエネルギー関係など大口案件を受注している企業も見受けられ、好調な生産活動が続いている。一方、一般産業機械では、自動車業界の冷え込みなどの影響を受け、生産が大幅に減少している。総じて見ると、プラント設備関連の増加分を一般産業機械の減少分が上回る形となり、弱い動きが続いている。全体の受注状況が前年並と、やや回復してきている。

この間、生産調整により一時帰休や休業、非正規社員の雇い止めを行っている企業があり、3月にはさらに増加することも懸念される。

6 電気機械

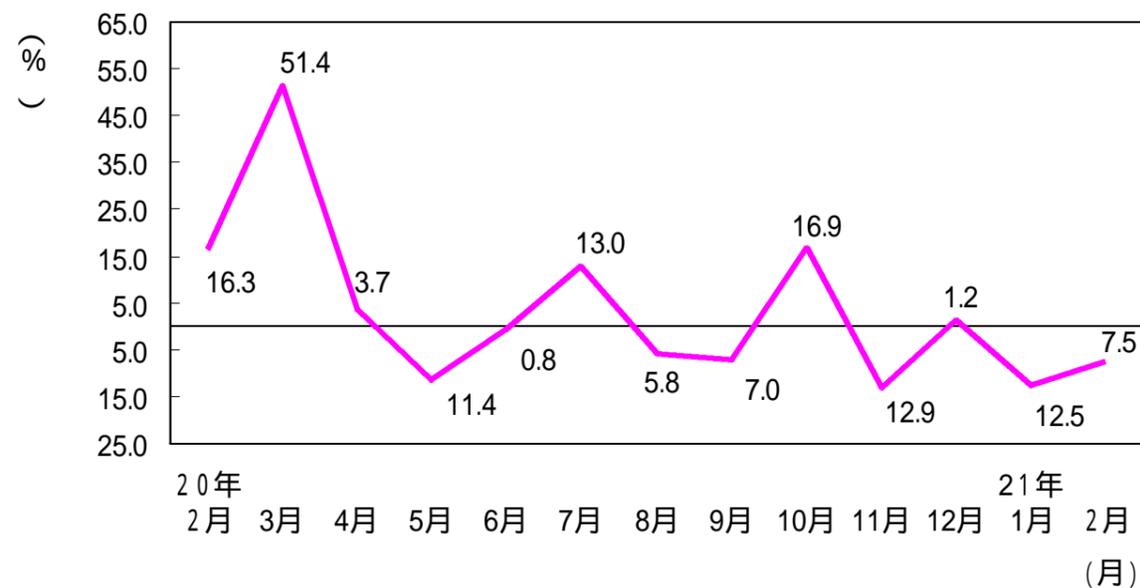
大幅に悪化している

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比58.0%減、同58.4%減。3か月先の業況見通しDIは 26.3から16.7となった。

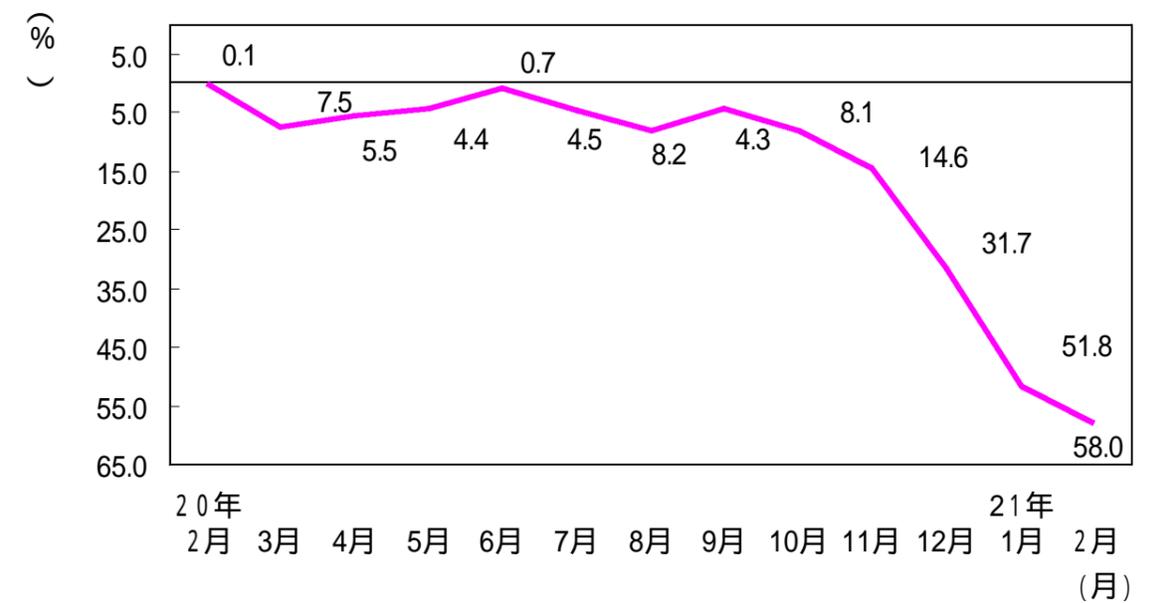
基板では、一部で好調となっており、今後はさらに増勢する見通しとなっている。しかし、コンデンサーや半導体、電子部品での受注が急速に減少しており、前年比7割近く落ち込んでいる。携帯電話向け部品でも、買換サイクルが伸びエンドユーザーが在庫調整していることで、生産が前年比3割以上減少し低調となっている。総じて見ると、生産・受注ともに落ち込みに歯止めがかからず、大幅に悪化している。3、4月以降受注の見通しが立っている企業もあり、悪化のテンポが鈍化する兆しも一部にある。

生産調整のため、操業時間短縮や操業停止日を設ける企業があるほか、非正規社員の雇い止めのほか、正規社員の希望退職が行われている企業もいくつかある。

一般機械生産額前年同月比



電気機械生産額前年同月比



7 輸送機械

大幅な減産続き、急速に悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比65.6%減、同63.3%減。3か月先の業況見通しDIは 50.0から0.0となった。

新社会人向けの新車需要により例年は繁忙期となる時期であるが、品目にかかわらず各社で在庫調整が進み、5～7割の大幅な減産となっている。休業日を設けて対応している企業が多く、週3日以上の休業を設けている企業もある。正社員の大幅な解雇を検討している企業も見受けられる。

8 精密機械

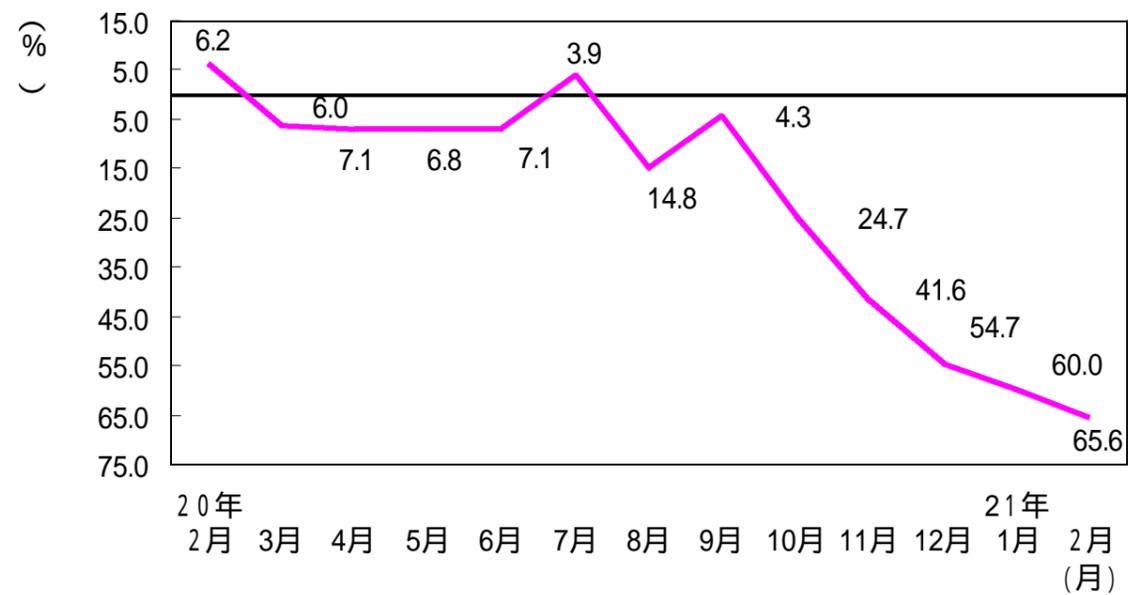
悪化している

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比22.6%減、同5.9%減。3か月先の業況見通しDIは 37.5から 25.0となった。

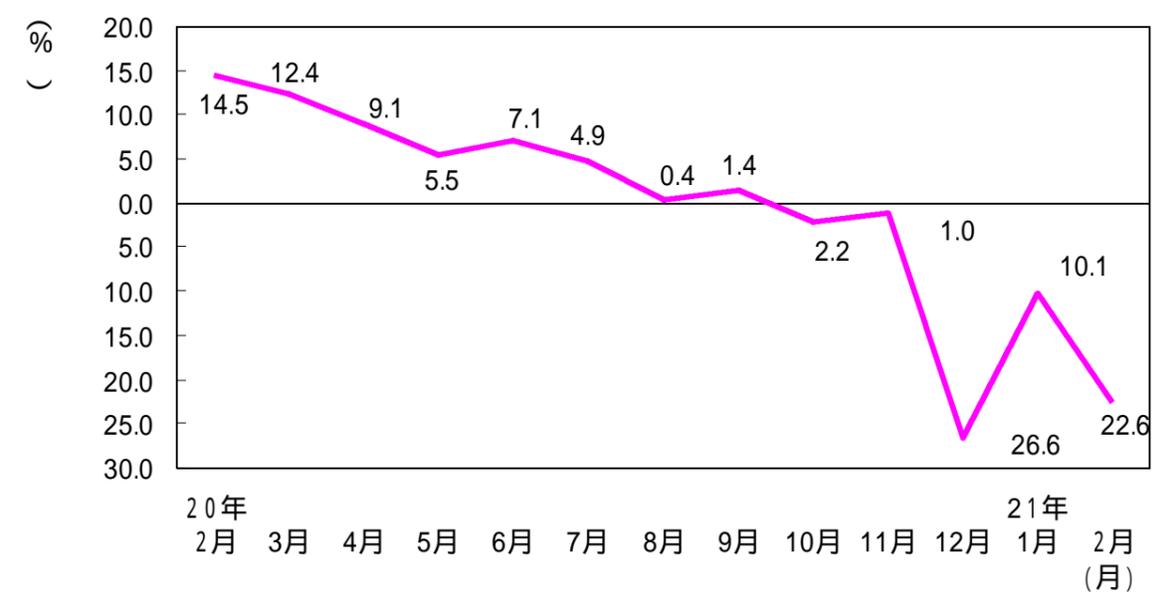
医療機器関連で、海外向け製品を中心に生産でやや落ち込みが見られるものの、受注が安定しており堅調を維持している。一方で、デジタルカメラ関連や携帯電話部品関連、自動車関連部品、光ファイバー関連、計量関連でも、5～7割の大幅な減産が続いており、総じて悪化している。

この間、非正規社員の雇い止め、正社員の希望退職による雇用調整を行っている企業も見受けられる。

輸送機械生産額前年同月比



精密機械生産額前年同月比



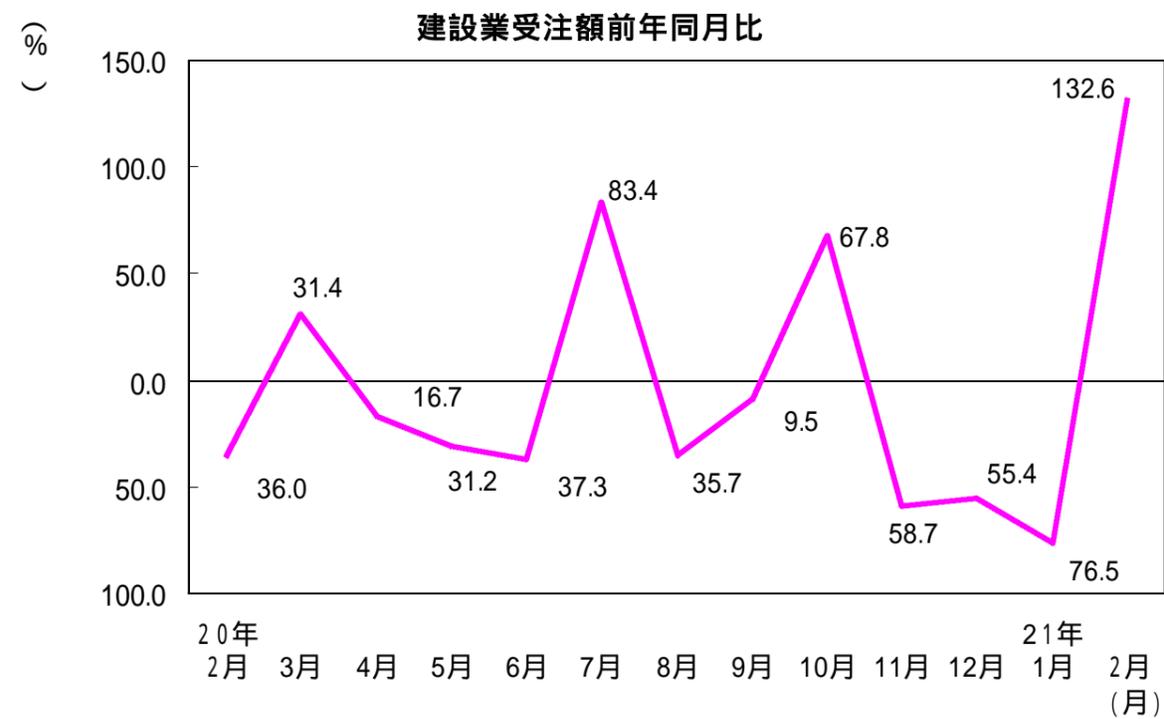
建設業の動向

建設業

厳しい状況が続く

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比132.6%増、同44.7%減。3か月先の業況見通しDIは 43.8から 33.3となった。

民間工事では、暖冬・少雪であったことから例年に比べ早めに動き始めており、県外工事の受注が多く見受けられる。経済対策として公共工事が前倒し発注されており、受注額が一時的に大幅増加している。しかし、競争激化により落札できていない企業が多いほか、小口の案件が多く、落札できても低価格で利益率が低い状況となっており、業界全体として厳しい状況は続いている。



小売業の動向

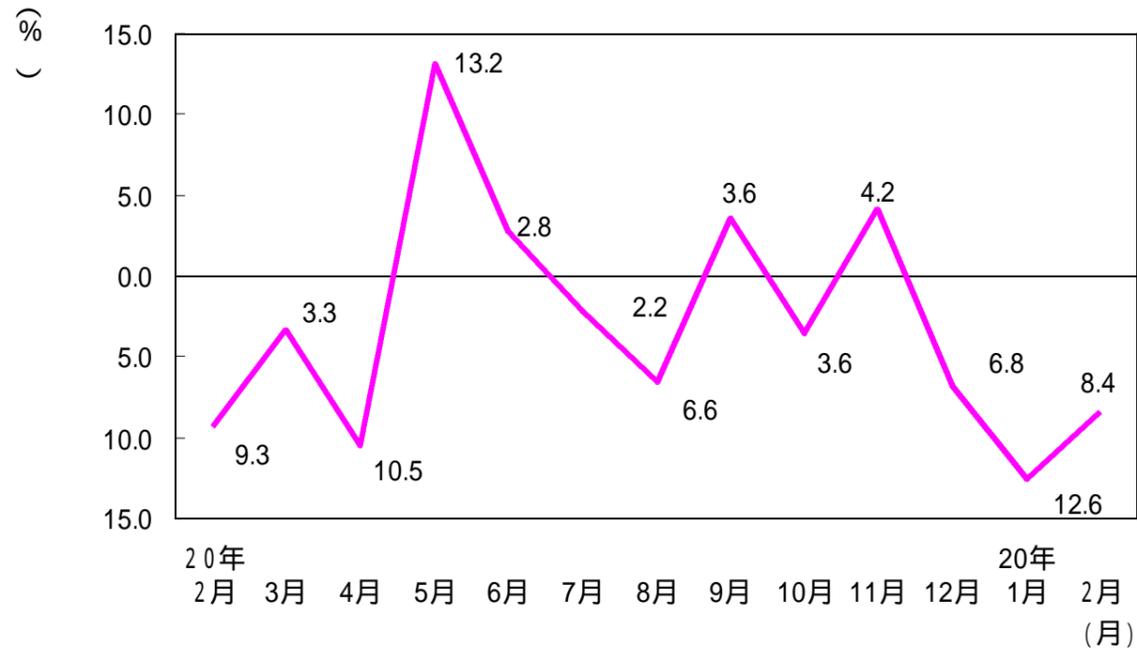
1 衣料品

低調な売上が続く

売上高は前年同月比8.4%減。3か月先の業況見通しDIは 66.7と変わらない。

個人所得の減少や暖冬により、コートなど冬物商品の売上伸び悩みが続いているほか、制服や作業着といった社用品の受注も例年に比べ減少している。春物も単価の安い商品を購入する動きにとどまっているほか、卒業式や入学式向けの礼服も売れ行きが不芳となっている。客足減少は続いており、消費者の節約志向は一層強まっている。

衣料品売上高前年同月比



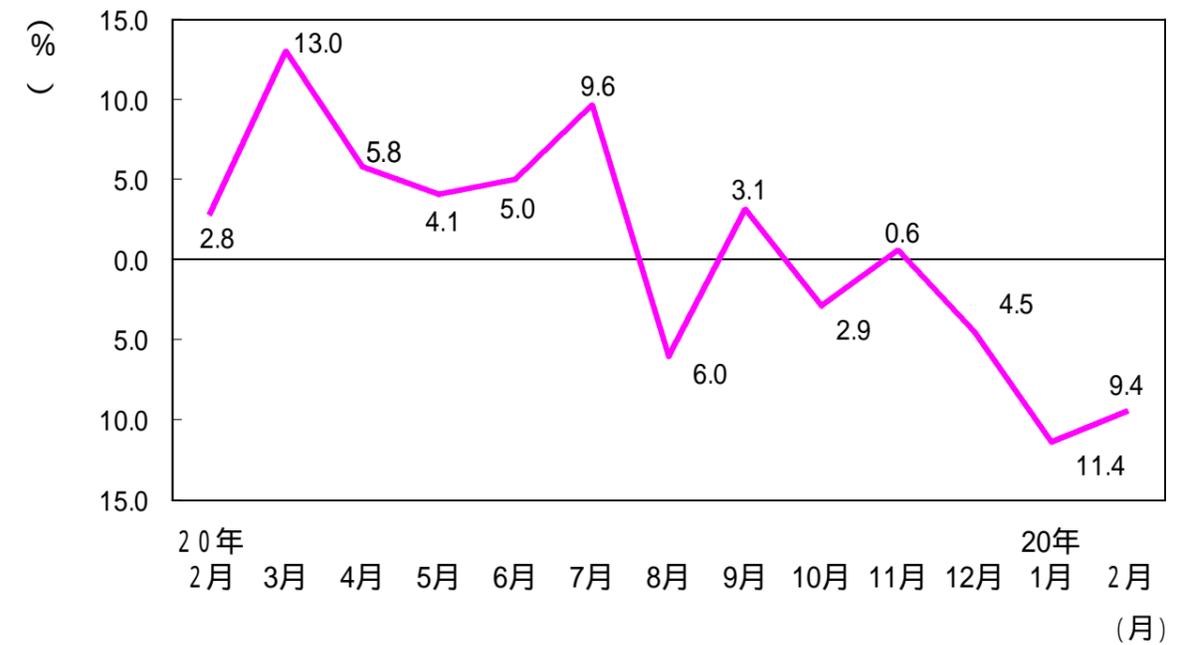
2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比9.4%減。3か月先の業況見通しDIは 80.0から 50.0となった。

暖冬により、暖房器具、除雪用品などの売上が芳しくなく、セールにより在庫処分が行われている。日用品や資材では動きが出始めているものの、園芸用品で動きが鈍く、自転車や新生活用品でも売上が落ち込んでいる。必要最低限のものしか購入しないと、消費者の節約志向が続いている。

身回品売上高前年同月比



3 飲食料品

底堅い売上が続く

売上高は前年同月比4.3%増。3か月先の業況見通しDIは 70.0から 55.6となった。

消費者の節約志向が続いており、第3のビールで好調さが伺えるものの、日本酒などの高額商品で落ち込んでおり、旅館・ホテル、飲食店からの受注減少も見受けられる。バレンタイン関連商品は、前年並となっている。一方で、内食傾向が強まっていることや一部セールの影響もあり、飲食料品全体でみるとうるう年効果のあった昨年を上回っており、底堅い売上が続いている。

この間、仕入れ価格高騰が続いているにもかかわらず、商品価格を下げざるを得ない状況にあり企業の収益性は悪化している。

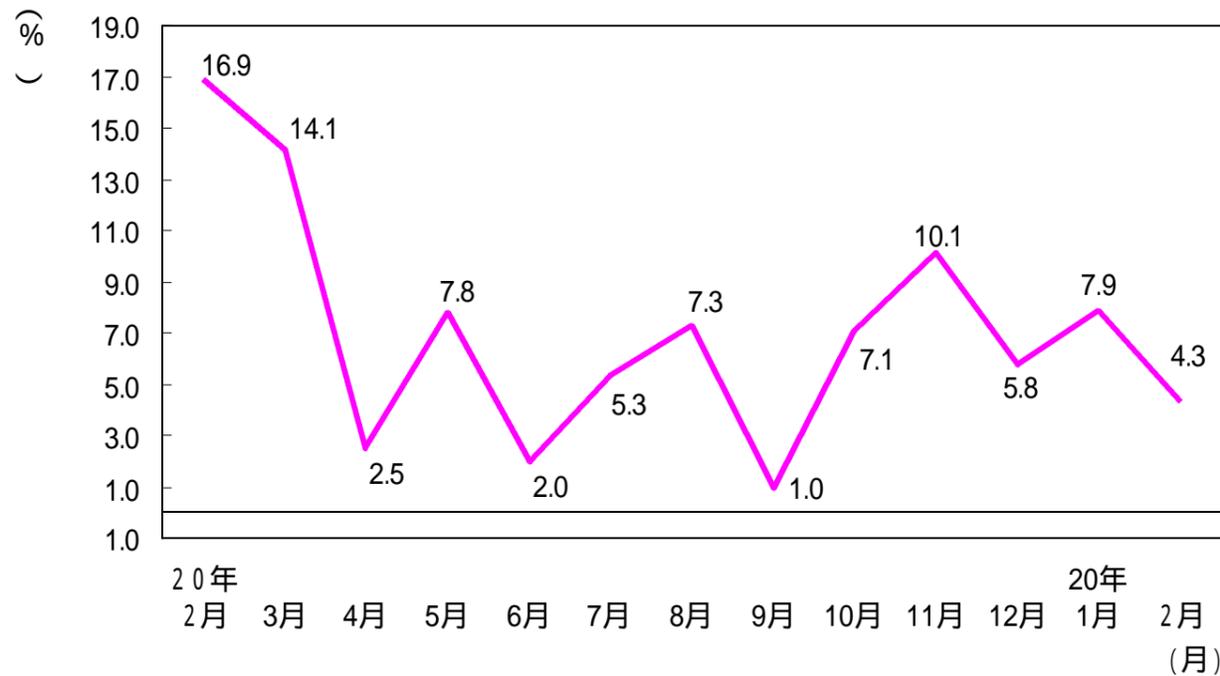
4 家電品

底堅い動きとなっている

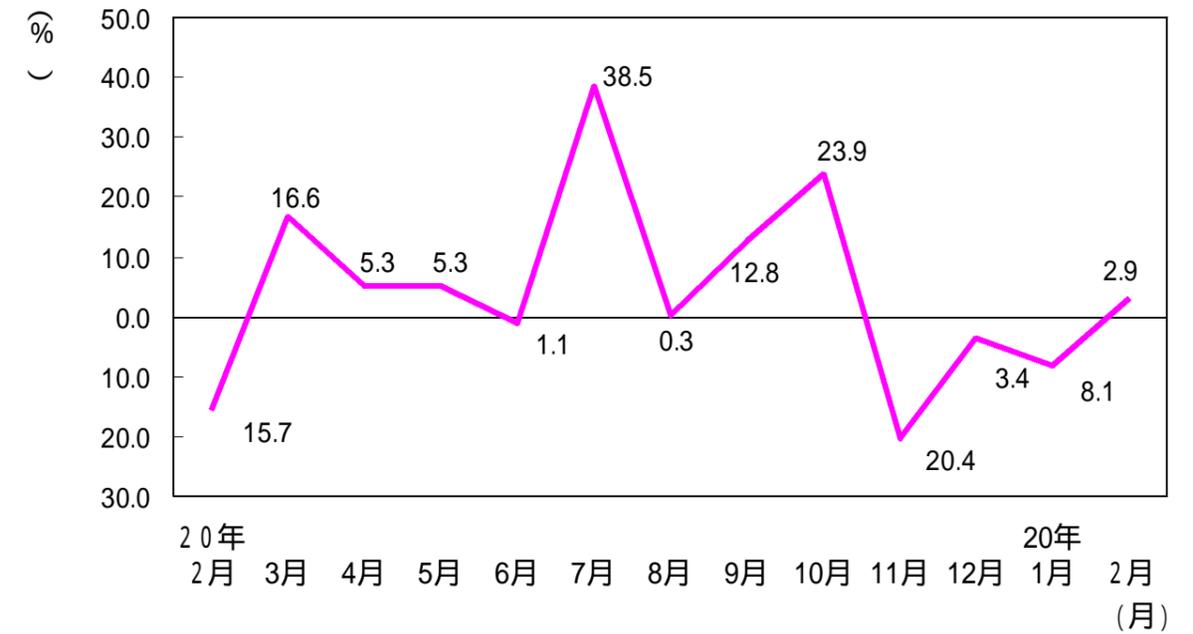
売上高は前年同月比2.9%増。3か月先の業況見通しDIは 20.0と変わらない。

パソコン価格が下落しており、販売台数で伸びても販売額では減少する傾向となっている。白物家電でも、低調となっている。しかし、地デジ移行に向けた買換需要が強い薄型テレビや、ブルーレイレコーダーなどのデジタル家電で引き続き堅調となっていることから、総じて見ると底堅い動きとなっている。

飲食料品売上高前年同月比



家電品売上高前年同月比



サービス業の動向

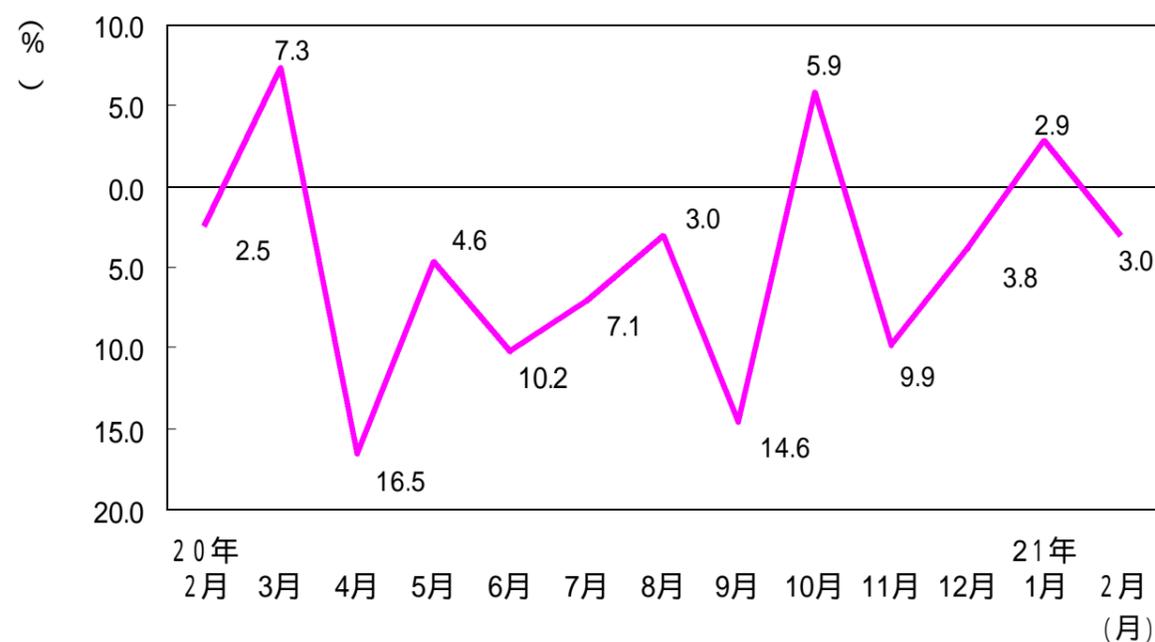
1 旅館・ホテル

厳しい状況が続く

売上高は前年同月比3.0%減。3か月先の業況見通しDIは 35.7から0.0となった。

1件あたりの売上が大きい婚礼部門で、動きがあり売上を伸ばしている。宿泊部門では、小正月のイベントやツアーによる集客増、低額プランなどで観光客を取り込んでいる企業もあるが、総じてみると、ビジネス客の減少もあり低調となっている。ガソリンの低価格安定や経済対策の高速道料金値下げにより、遠方からの予約が増え始めている企業も見受けられ、今後の集客増に期待が寄せられている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

運輸業では低調に推移するも、道の駅で好調

売上高は前年同月比31.6%減。3か月先の業況見通しDIは20.0から10.0となった。

道の駅では、ガソリン低価格安定もあり、前年比6.3%増と先月に引き続き飲食店や物販店の両方で好調となっている。今後の高速道料金値下げにも、期待を寄せている企業が見受けられる。

運輸業では、倉庫部門で在庫量が回復してきているが、貨物部門で自動車部品を中心に減少している。タクシー客も減少していることから、運輸業全体の売上高は前年比27.7%減と、低調となっている。ソフトウェア関連でも、先月に引き続き前年割れとなり低調となっている。

保険では、消費者の節約志向もあり、契約の縮小・見直しの動きが顕著になってきており、さらに弱い動きとなっている。

その他サービス売上高前年同月比

